

---

# 運命に撃鉄を なんちゃって予告編

ままま

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

運命に撃鉄を なんちゃって予告編

### 【Nコード】

N65450

### 【作者名】

ままま

### 【あらすじ】

七つの命と七つの魂を天秤に、レートは死、希望は願いを。叶えてみせようホトトギス、丑の泣く頃一つ、二つ、三つ。架空と架空じゃない、それに意味は無く、架空とは果てしなく無駄なものである。ならば、架空の英雄とは一体何なのか。架空の願いに意味はあるのか、彼は答えるだろう、どうでもいい、と

(前書き)

まさかの身内クロス、前作を知らない人でも、本編ではオリ主様の  
変態っぷりがわかるように書くつもりです。まだ書くかどうかは不  
明ですけどねい

英雄とは果てしなく無駄なものである。誰かがそう言う、無論、それは嘘だ。英雄に無駄があつていいはずがない。英雄とは希望だ、切望だ、渴望だ、願望なのだ。それが無駄でいいはずがないだろう。そもそも英雄とは一体どういう”存在”なのだろうか。万の敵を打ち倒した者か、万の軍勢から祖国を守り抜いた者か、誰にも到達の出来ぬ極地に辿り着いた者か、救えぬ誰かを救った者かもしれないし、運命を変えた者かもしれない。はたまた、ただの人殺しが英雄になることもある。中には英雄を傀儡だという者いるかもしれない。単純だ、自分が倒せないなら別の誰かに倒して貰えばいい、その人もダメならまた次の人へ、その螺旋の先の雫ことが英雄だ、と……。見知らぬ人の希望を無理矢理担がされたただの人、だと言うかもしれない。他人に任せたままのただの阿呆と罵るかもしれない。

「ああ、なんとも憎たらしくみずみずしい、まるで黄金の果実のごとくそれは甘美なり。簡単に言う」と どうでもいい” ってことだ莫迦め。」

私はそれを否定しよう、否定こそが人間なのだから。英雄を否定してこそ人間、その考えを否定してこそ……彼が彼である所以。誰もが到達の出来ぬ英雄を担がせれるものか、否、誰も出来やしない。万人がこう答えるだろう、俺に力がもつとあれば、と。『化け物』<sup>モンスター</sup>に家族を殺され、故郷を焼き払われ、愛する者を蹂躪され、その向こうになにがあるのか。復讐か、それも実に良い。趣風情のある情景だ、鐘楼の鐘が響く王族の式のごとく華やかで優美で……。彼ならばそれを推奨するだろう、勝手にしてやがれ莫迦野郎、と。無論、

彼が手を出すこともないしそれを”否定”することもなく”肯定”もない。何しろ彼は”他人”であるからだ。誰かが望んだ英雄になろうともしなかった、むしろ彼は英雄なろうとしたのだ。

私は殺<sup>モンスター</sup>人者、いつまでも貴方を愛している

殺す殺され殺されぬ。負と死、進化と起源と生命の遺伝子の因子が拗れ狂う。怖れ畏れ恐れ、皆者おそれそのけ平伏すが良い。彼こそ英雄、たった一人の少女のために戦い億を殺した人類の天敵種。彼こそ化け物でたった一人の大英雄。撃鉄の英雄にして螺旋の具現者なり。さあ、ここに宣言しよう。時は熟した、と。

「聖杯、それは如何なる願いも叶える万能の願望具。ならば成就してみせろ、矛盾の（はてしなき）願<sup>しゅまつ</sup>い事を。」

I'm a thinker.  
私は考えた

I could break it down.  
私は壊そう、その現実を

I'm a shooter. A drastic baby.

私は狙撃主、壊すことしか出来ぬ愚か者

Agitate and jump out.  
弾丸を弾け飛ばし

Feel it in the will.  
己が世界を葬り去る

Can you talk about deep-sea  
with me.

私はそこにいる、深海よ我に答えを

The deep-sea fish loves you  
forever.

私は深海魚、いつまでも貴方を愛している

All are as your thinking over.

例えば貴方が忘れようとも、全てはそこに在る

Out of space, When someone  
waits there.

空間飛び越え、何が待っているとも

Sound of jet, They played for  
out.

我が歩く音は止まらない、そして私は人へと至ろうぞ

白き英雄はけものは出会った。己が下らない願望を、ただ”見る”ためだけに。

「問おう、お前が俺の……、担い手マスターたる存在か？」

白き少女にないては出会った。来るべき大戦争に勝つために。

「バーサーカー？じゃ、ない？」

「何を言う、俺は狂っているぞ？それはもう、三日三晩煮込見続けたシーフードカレーのごとくドロドロだ、希望するならチーズも追加してやろう」

七騎の英雄と

「ええ、よろしくね『化け物』モンスター……フフ、耐久だけDって逆に安心しちゃうわね。」

「ここに契約ねがいはなった、ならば勝とう、全てを肉塊に、我こそ撃鉄螺旋の大英雄ダブル・シックスだ。」

七人の魔術師の

「架空の英雄ですって？」

「架空かどうかの確かめも出来ない以上、それは実に関係の無い話だ。」

たった7人と7騎の大戦争。

求めるは聖杯、叶えて見せる己が願望を。

「ねえお話は終わった？」

「な、なによあのサーヴァント！？規定外にも……神風にもほどがあるじゃない！」

『剣の英雄』  
セイバー

「貴様は誇りが無いのかモンスターああ……!!」

『弓の英雄』  
アーチャー

「私とこの変態が似ているだトツ？……眩暈が」

『槍の英雄』  
ランスアー

「面白くなってきたじゃねーか、その心臓！貰い受ける……!!」



『騎兵の英雄』ライダー

「ダメです、サクラ。生理的にあれば無理です、具体的にペルセウス級ですよアレは」

『魔術の英雄』キャスター

「ねえ、魔力弾の雨の中を傘さして歩くのやめてくれないかしら？」

『暗殺の英雄』アサシン

「まさか三つで足りぬとは、さすが古今東西のもののが集う祭りゴト、柄にも無いが……少々燃えてきた」

そして…

「ふうん、やるじゃないあなたのアーチャー。見直しちゃった。まさかモンスターが死ぬとは思わなかったわ、ねえ何回逝った？」

「3回だな。ほお、わけわからんという顔だな、セイバーにアーチャー、ついでに付属品マスターよ。なに、こういう場面にピッタリの台詞があるのだ、これを聞いてからそういう顔をするがいいさ。」

あー、死ぬかと思った、とな

『モンスター  
怪物の英雄』

「今日も元気だ牛乳がうまい！」

少女は出会う、たった一人のための英雄に。最後まで始まりも、過程も結果を誰も知らぬ果てしなく架空。だが、それに何の問題があるだろうか。彼は英雄として生きた、たった一人のために戦い生きた、ああ、それで彼は満足なのだから。

足止めをするのはいいが…別に倒してしまってもかまわんのだらう？

「これが貴様の固有結界か、この程度の無限で起源の果てを越えるつもりか、錬鉄の英雄。」

「これは剣の極地にて無限の丘。なに、私は踏破する気などサラサラないさ。全部切り刻めば良いからな？だらう、撃鉄の英雄。」

成就してみせろ、貴様の答えを

うんめい！

(後書き)

第一回戦

ランサー× - モンスター

まさかの死オチ

第二回戦

アサシン× - モンスター

まさかの分裂

第三回戦

キヤスター× - モンスター

まさかの死オチ

第四回戦

アーチャー & セイバー× - モンスター

まさかの死オチ

第五回戦

アーチャー× - モンスター

まさかのシリアス

第六回戦

アーチャー(金)× - モンスター

まさかの変態勝負

第七回戦

セイバー× - モンスター

まさかの最終宝具で日本BADEND

第八回戦

テオドラ - ×モンスター

まさかの即効魔法、相手は死ぬ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6545o/>

---

運命に撃鉄を なんちゃって予告編

2010年11月2日02時27分発行